

福岡市

鴻臚館跡の北館東門 復元現場を公開

福岡市は28日、鴻臚館跡（中央区城内）で進める北館東門復元工事の現場を報道陣に公開した。岩崎建設（福岡市）の施工で2025年8月から工事を進めており、10月

東門公開、26年度末までの東辺完成を目指す。市が進める鴻臚館整備・活用事業の一環で、北館の東門と塀の東辺を復元する。東門は、高さ約6層・幅約10層の

八脚門。直径約40センチの柱12本による木造の掘立柱建物で、屋根は本瓦ぶき。東辺は高さ約3層、長さ約46メートル。しっくい塗りの白壁で、直径30センチの柱22本による木造掘立柱建



上棟した東門

て、瓦ぶき。設計は修復技術システム（同）が担当。

外観の復元と耐久性を両立するため、木構造システムの「樹脂拡張アンカー工法」を採用している。岩崎建設の永井勝雄現場代理人は「後世まで建物を残すことを重視した工法で、施工難易度が高い。ボルトをつなぐ手順などを工夫しながら工事を進めている」と述べた。

同事業は、日本で唯一遺構が見えられている史跡鴻臚館跡の整備・活用を図る。北館東門復元のほか、展示館のリニューアルオープン、便益施設の新設などを予定している。

